令和２年１１月　上市町教育委員会　定例会

当面の教育課題について　議事録

（教育長）

資料№１の児童数の推移については、５年スパン、15 年程前の状況から作成したもの。（同時期に立山町などで統廃合が行われた）平成 20 年から２校で複式学級があったが、その後の町営住宅の建設により一定の児童数を確保してきた。小規模校としての政策的な梃入れがあってのことである。

現状では令和７年に上市中央小の就学児童は 31 人の予定であり、単級となる。富山市でも４割は単級である。国の基準は基準として、上市はどうしていくのか、ご意見をいただきたい。

［学級の規模等、通学］

（委員）

白萩西部小が学年によっては児童が抜けてしまった時、保護者として１～２人の学級ではとの心配もあったものと思われる。

（委員）

上市スタイルとして、学校教育法施行規則の但し書き部分（第 41 条　小学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。）をとって、学校教育にお金をかけられる範囲で目一杯かけてもらいたい。

手を挙げて質問ができる生徒は一部、一斉授業ではなかなか理解が難しい生徒も、少人数だと理解が進む、このことが町のスタイルとしてある。それでもなかなか一人ひとりの力が発揮できない。このスタイルを続けられる限り、続けてもらいたい。

（委員）

中学生の授業で教科によっては 1/3 ぐらいの生徒が寝ていたり、別のことをしている。かと思えば、他の授業ではその生徒がしっかりと授業を聴いている。保護者から、自分たちの頃と比べ、抑止力の役割の先生が少ないのではとの意見もある。

（委員）

上市町の考えとして、これだけのデータが揃っている以上、人口については減少も流出も止まらない。子どもが減っていく中でどうしていくのか。白萩西部と陽南だけではなく、全体で減っているのに、全体ではなく集中してやっていくように考えられているのではないか。成り立たないことを言ってもどうかと思う。

子どもたちにとってはどうなのか、子ども目線で見てみる必要がある。町営住宅にしてもその後の戦略がないように思う。もっとスピード感と優先順位を明確にしなければならな

い。学校がなくなるとそこには住まなくなる。学校はできるだけ残してほしいとは思うが、メリット、デメリット、成り立つかどうかを考えていく必要がある。

（教育長）

子どもたち同士の関わり、人数が少ない方が先生方が子どもたちに向き合う時間も多い。人数が沢山だと色々なリスクも多い。一方、人数が少ないことのデメリットは人間関係が固定化してしまうことである。複式となると同じ教室で二つに分かれることとなる。これを解消するために町単講師を配置する。いわゆるそれだけのお金を掛ける値打ちがあるのかという話になる。

（教育長）

サイズだけ整えればいいというものではない。そうすると際限がなくなるのではないか。条件をしっかりと整備する必要がある。地域をどうするかなど、色々なものを踏まえ、その判断が必要となる。

（委員）

大人側の都合が優先されている気がする。ただ切り合わせるものではないと思う。

（委員）

上市町としてどうするのかという中で、教育委員会だけではなく、全体的な視野で考えないといけない。

（委員）

空き家とならないように、住んでもらう施策が必要である。

（教育長）

持続可能（ＳＤＧｓ）、色々なものに目を向けていかなければならない。

（委員）

いつまで現状を維持できるのか。どうすれば町の子どもたちを将来の夢に向かって力をつけてやれるのか。そのためには、教職員一人一人が力を発揮できる環境づくりや、小中高の教職員の交流もその一つと考える。